

# 2015 年度活動報告 学部授業：日本語Ⅳ

森本 郁代（関西学院大学法学部）

## 1. 到達目標

日本語Ⅳは、日本語ⅠからⅢまでで身に付けたアカデミックな日本語力の集大成として、小論文の作成とプレゼンテーションを通じて、論理的思考力および批判的思考力を養うことを目指す。具体的には、1) あるテーマについて自分の問題意識に沿って問題を立て（「序論」）、それについて論理的・実証的に論述を展開し（「本論」）、冒頭に立てた問題に対する解答を与える（「結論」）という、論文の要件と構成を理解し、それにしたがって論文を書く力を身に付ける 2) 自分の論文の内容を、適切な表現で分かりやすく伝える力を身に付ける 3) 論文内容の検討やプレゼンテーションにおける受講生同士の意見交換を通して、アカデミックな場におけるコミュニケーション能力を高めるとともに、批判的思考力を養う の3点である。

## 2. 2015 年度の授業内容

テーマを自分で設定し、小論文の作成と内容のプレゼンテーションを行うことで、総合的な日本語能力及び論理的思考力、批判的思考力を養うことを目的とした。テーマ設定は日本語Ⅲの時点から開始し、日本語Ⅳでは、テーマの再検討と決定、先行研究の調査、アンケート調査の実施と分析を行い、それを踏まえて 5000 字程度の論文を書くまでの各段階を 1 学期間かけて学生に課した。なお、日本語Ⅳでは、水曜日と金曜日の担当者が連携して授業を進めた。また、新しい試みとして、アンケートの作成や集計・分析のサポートとして、各クラス 1 名のラーニング・アシスタントを採用した。

## 3. 成果と今後の課題

今年度もほぼすべての受講生が小論文を提出し、昨年を上回る質の論文が少なからず見られた。多くの学生が達成感を得たことが、授業評価アンケートから読みとれた一方で、課題の多さや、ピア活動に不満を持つ学生もいた。昨年度の授業アンケートでは、もっとクラスメイトと共同で行う活動をしてほしかったという希望が見られたが、今年は逆にピア活動の意義に疑問を持つ者もいた。ピア活動に学生が意義を見出し、積極的に参加できるような活動のデザインをすることが今後の課題である。